

MAIL MAGAZINE

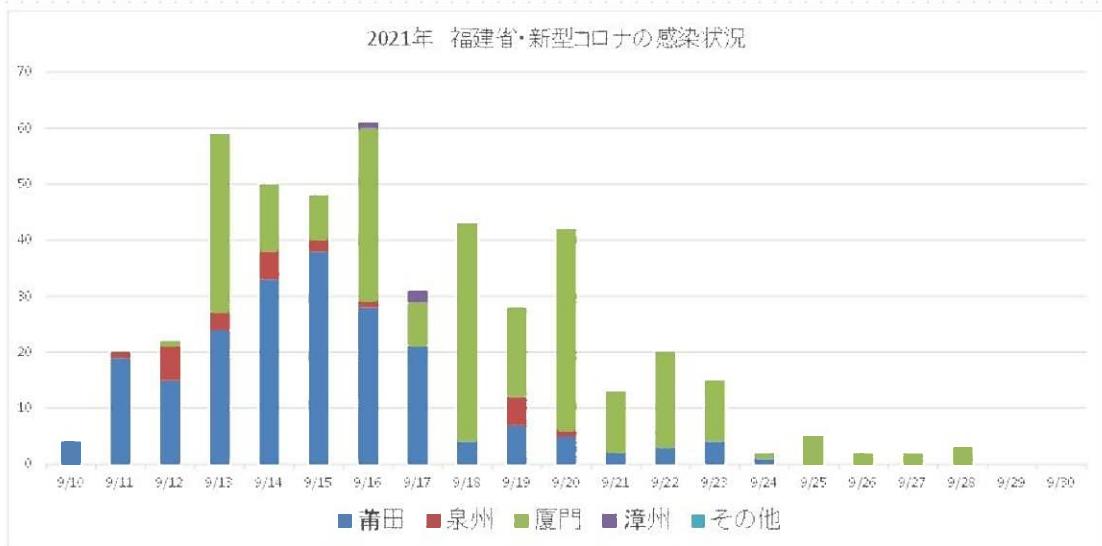
メールマガジン

福建省の新型コロナ騒動！

JSC 貿易部ニュース 中国編

毎号当メルマガに目を通してください誠にありがとうございます。

さて早速ではございますが、今回のメルマガでは石材店の皆様にも大変ご心配をお掛けしております、福建省の新型コロナの感染状況とその影響について、先月の発生以降から現在に至るまで現地ではどのような対応が取られていたのかを含め、時系列を追ってお伝えしてまいりたいと思います。



(日付)	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30
莆田	4	19	15	24	33	38	28	21	4	7	5	2	3	4	1						
泉州		1	6	3	5	2		1		5	1										
廈門			1	32	12	8	31	8	39	16	36	11	17	11	1	5	2	2	3		
漳州						1	2														
その他																					
合計	4	20	22	59	50	48	61	31	43	26	42	13	20	15	2	5	2	2	3	0	0

2020年1月から1年半以上に渡って世界中を混乱に陥れている新型コロナウイルス。昨年4月以降、中国本土では公表されているデータを見る限りではあります、1日当たりの陽性者数は、海外からの渡航者も含め100名以内に抑えられてきました。ところが、今年に入り世界中で猛威を振るう”デルタ株”が中国にも流入、大連、深セン、南京、寧波などで局地的に陽性者が発生する事態が確認されていました。

今回、福建省で最初に感染が確認された陽性者も海外からの帰国者でしたが、帰国後、家族の通う学校や職場でいわゆるクラスターが発生、隣の泉州市や廈門市の工場、医療施設へと感染が拡がっていきました。

現地報道によりますと、今回の感染の経緯は下記のようになります。

- 8月4日 今回の第一感染者がシンガポールから帰国後、4週間の隔離期間中、9度の検査では陰性。
- 9月10日 子供の通う学校と勤務する靴工場でクラスターが発生、本人も再検査で陽性判定。
- 9月10日～12日 甫田市で60名あまりの陽性判明。泉州と廈門でもそれぞれ2名の感染。
- 9月13日 アモイ市のハイリスクエリアを対象としたPCR検査で32名の感染が判明。
その後全市民を検査の対象に。
- 9月14日 アモイ全市を対象とした外出規制、交通規制が通達される。

その後糺余曲折はありましたが、上のグラフから見ても、また現地の報告からも、2週間経った9月末時点では、ほぼ収束しつつあるように見えます。

今回の一連の対応を見聞きするにつけ、中国の新型コロナ対策は主に、①徹底的なPCR検査、②中国語で”閉鎖式”と呼ばれるスマホの情報をもとにした移動規制、の2点にあるように感じました。

中国では、陽性者が確認され始めるや否や機先を制するように広範囲でPCR検査を実施します。例えば廈門市の場合、最初の3回は全市民（約500万人）が対象、その後は陽性者がいるエリアに徐々に範囲を絞り、9月末までに計10回近くの検査が行われました。他にも、陽性者の出でていない福州市でも全市民対象のPCR検査が行われていましたし、石材工場のある惠安では、1回目の検査で陽性者ゼロを確認した後も、感染エリアに隣接しているという理由で2回目の検査が行われていました。

そのPCR検査の結果をもとに、個人のスマホに紐づけられている「健康コード」でグループ化され、現在の健康状態や行動制限の内容として個人に通知されます。

健康コードは、赤・黄・緑の3種類に色分けされており、それぞれ、



赤・・・陽性者と濃厚接触した可能性のある人。医療機関に連絡した上で、要隔離。
黄・・・陽性者の出たエリアに滞在したことのある人。外出規制の上、2週間の経過観察。
緑・・・過去2週間に感染した可能性のない人
と分けられており、

例えばPCR検査で本人は陰性であったとしても同じ住居エリアに陽性者がいた場合、”黄色”と判定され、その人は交通機関に乗れない、デパートやスーパーに入れないなど個人の移動が制限されます。このように他国と違い、厳しい規制を敷くのが中国式コロナ対策と言えます。

今回数々の通達の中には、市をまたいで移動するトラック・ドライバーに対しても制限を行うとの情報が飛び交ったりもしましたので、完成した墓石製品の港までの輸送への影響、これを非常に懸念しておりましたが、現地の公司や物流関係者の尽力もあり、ほぼ滞りなく出荷することができました。この場を借りてお礼申し上げます。

今回、最初の陽性者が出了莆田市は木材産業で有名な町です。石材工場も莆田市から梱包用木材を仕入れることが多いのですが、コロナ発生後、地元の莆田港はすぐに閉鎖になり、日中両国の木材関係者に少なからぬ影響があったと聞いております。

今回の新型コロナ騒動については一旦収束の気配ですが、今度は中国各地で電力不足による計画停電が実施され、その影響が福建省の石材工場にも拡がってきております。当社のパートナー工場でも、政府の指示により、9月末から2日間～5日間程度の突発的な停電に見舞われており、生産が停止するトラブルが起きています。

自らは自家発電装置を使うなどの対策を講じ、ご依頼の納期に間に合わせるべく頑張ってもらっておりますが、自家発電は設備の有無や生産コストへの大きな影響が伴います。10月以降～年内いっぱいは、更に電力使用を制限する（一説では昨年比30%以下に抑える義務）という現地情報もあり、中長期的に生産に大きな影響を及ぼす可能性がございますので、お客様とのご契約納期には十分にご注意下さい。

現在当社では、現地社員やパートナー工場と対策を検討し、できる限りご注文の商品を滞りなく出荷できるように取り組んでおりますが、状況が状況でございます。お客様におかれましても事情ご賢察の上ご協力を願い申し上げます。

尚、まだ先ではございますが、来年の中国の旧正月は西暦の2月1日です。今の感じですと年末・新年は各工場とも生産が混乱していることが予想されますので、早めの御注文を心掛けて頂きますようお願い申し上げます。

いずれにしましても、今後とも気を抜かずに対策を打ってまいります。

さて、今月の石の紹介は、カンボジア産の「OW-1」です。

ご利用頂いているお客様も少なくないと思います。お手頃価格の細目の白御影になります。加工は中国ですが、すでに全国の石材店様にご活用頂いており白御影の墓石材として一定のポジションを築いてきたように見受けられます。



上の写真は、カンボジア現地の採掘現場の様子です。丁場写真を見てお分かり頂けますように、徐々に採掘の規模を拡大しており、「G 6 1 4」や「G 6 0 3」等の一世を風靡した石種が表舞台から消えつつあるいま、安定供給が見込める白御影の一つと言えます。長尺もありますので、ぜひ御用命のほどお待ちしております。

今月は以上となりますが、日本国内のコロナ禍も状況が少しずつ好転し始めました。石材輸入は問題山積ではございますが、スタッフ全員めげずに頑張ってまいります。

皆様おかれましても大変な状況かと存じます。くれぐれもご自愛くださいますようお祈り申し上げます。

2021/10/01